

令和4年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

研究指定地域	人吉市立第一中学校区			
学校の概要 ※教員数は常勤教員(講師も含む)の数	研究指定校	児童生徒数	教員数	校長名・研究主任名
	人吉市立第一中学校	409人	34人	校長 原 崇 研究主任 水口 大基
	人吉市立人吉東小学校	448人	31人	校長 大瀬 克彦 研究主任 山下 翠

研究主題
学びをたのしみ、自らを高め続ける児童生徒の育成

現状や課題	計 画	目指す成果【検証方法】
<p>1 地域共通</p> <p>①学習指導要領における各教科等の見方・考え方を働かせた授業づくりが十分ではない。</p> <p>②目指す児童生徒の姿や育む資質・能力が共有された取組の充実が必要である。</p> <p>③友達と話し合うことで高め合ったり、伝え合ったりすることなど、学びを深める取組が必要である。</p> <p>④家庭学習への意識は高いが個人差がある。</p> <p>⑤総合的な学習の時間が問題解決的かつ各教科等の資質・能力を往還する学習となるよう展開する必要がある。</p> <p>⑥スタートカリキュラムにおける幼児期の終わりまでに育てほしい資質・能力及び期待する成長の姿を地域全職員で共有できていない。</p> <p>⑦学校教育目標等の五者連携の充実をより図る必要がある。</p> <p>⑧小中間での交流を踏まえて、お互いの授業や取組について意見交換をしたり、小中相互の児童生徒理解の場を設けたりする機会がさらに必要である。</p> <p>2 中学校</p> <p>①難しい問題に挑戦したり、意欲的に学ぼうとしたりするような取組が必要である。</p> <p>②継続した取組を苦手とする生徒がおり、基礎学力定着への取組の充実が必要である。</p>	<p>1 地域共通</p> <p>①各教科等の見方・考え方を意識した授業改善【研究授業及び授業改善チェックリスト】</p> <p>②発達段階に応じた地域共通の資質・能力が反映された各学校の「授業改善チェックリスト」【授業改善チェックリスト】</p> <p>③認め・ほめ・励まし・伸ばす学級活動を核とした支持的風土の醸成【発達段階に応じた話し合い活動のための手立て】</p> <p>④授業で学んだことを家庭学習につなげる自主学习の工夫【家庭学習の手引き】</p> <p>⑤目指す資質・能力の活動内容への位置付け【9カ年を見通した資質・能力】</p> <p>⑥園等の活動において期待される資質・能力の把握【園等の資質・能力一覧表】</p> <p>⑦教職員間・児童生徒間・保護者間での学校教育目標等の共有化【全校集会等・一覧表作成・園等連携会議の開催】</p> <p>⑧小中交流機会の充実による、相互理解の深化【小中交流会、体験授業等の実施】</p> <p>2 中学校</p> <p>①「分かった」「できた」を実感できる教科の本質を捉えた授業の工夫改善【熊本県学力・学習状況調査】</p> <p>②「振り返り」の充実と主体的な課題設定を見据</p>	

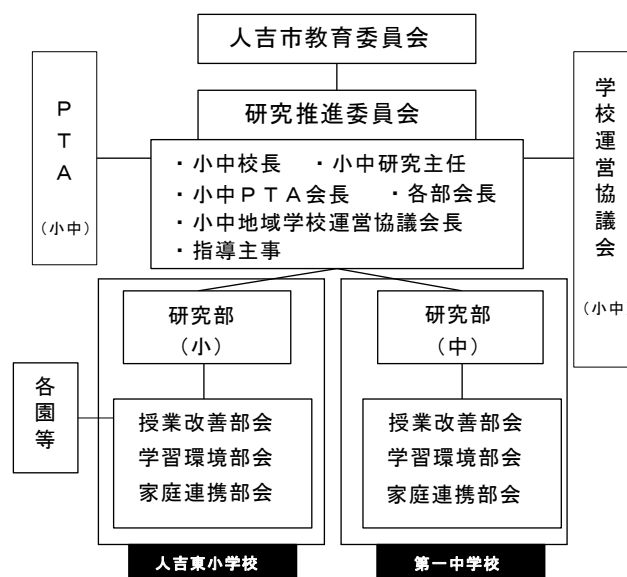
<p>③周囲の友達と関わったり、協力したり、話し合ったりすることに苦手意識をもっている生徒がいる。</p> <p>3 小学校</p> <p>①主体的・対話的に学ぶ児童の姿や深く学んでいる児童の姿の共有が必要である。</p> <p>②家庭と連携した学習習慣形成への取組の充実が必要である。</p> <p>③低学年のつまずきへの対応の充実が求められる。</p> <p>④学級経営における支持的風土の醸成への取組の充実が求められる。</p> <p>⑤学習のゴールを意識した「振り返り」はできているが、学びを深める「問い」が一層求められる。</p>	<p>えた各教科の単元デザインの工夫</p> <p>③学校での学びと家庭学習の連携による、学習意欲の向上と読書活動の推進【i-check 及びアンケート】</p> <p>④特別活動における話し合い活動の充実による、自治的かつ支持的風土の醸成【i-check 及びアンケート】</p> <p>3 小学校</p> <p>①人吉市立教育研究所学力向上部会で実践を積み重ねてきた「人吉型の授業づくり」を基本とした授業実践【授業改善チェックリスト】</p> <p>②小中共同で作成した「家庭学習の手引き」(児童生徒保護者向け)の活用と、家庭と連携した学習習慣の形成【家庭学習の手引き】</p> <p>③つまずきの個別調査(低学年対象)による、つまずきのパターンの類型化と対策【つまずき一覧表】</p> <p>④安心と信頼にあふれた高め合う学級づくり【教師が目指す授業づくりのポイント】</p> <p>⑤授業に臨む態度の育成【発表(発言)のルールや教室での約束一覧】</p>
--	---

研究の具体的な取組内容の実際

- 第一中学校では、研究授業などを重ね、「学びをたのしむ」生徒の姿や、「自らを高め続ける」生徒の姿について教師間で考えを交わし、生徒にとっての「よい学び」について認識を共有した。また、授業研究会で共通認識できた内容をもとに、教師相互に授業を参観したり、研究授業などで実践を重ねたりすることで、授業改善を進めた。(2①②)
- 「振り返り」の実践の仕方や、振り返りをもとにした児童生徒主体の課題設定について、教科間で実践を共有した。また、児童生徒が「単元のゴールの姿」を捉えることができるように、掲示物を工夫したり、ICTを活用したりするなどして、常に意識できる工夫を行った。(2①②)
- 家庭学習ノートの取組について、各学級での好事例を掲示したり、教師が価値付けたりする機会を増やした。家庭との連携のために、自学ノートの振り返りシートを配付し、毎月末には、取組内容について家庭からコメントをもらうなどして、学校と家庭が連携して児童生徒の学びを見取る取組体制をつくった。(2③)
- 家庭への情報発信という点において、学校から発行される通信の在り方について校内研修で共有した。担任それぞれのこだわりや家庭の意見を聞き取る工夫をしたり、学校の様子を発信したりしており、共有することで適切な情報発信の在り方や、家庭との連携の在り方について検証を行った。(2③)
- 読書活動の推進のために、朝自習の時間で読書の時間を定期的に設定した。また、図書室で本を借りたり感想を書いたりするとポイントが貯まるシステムをつくり、読書活動に意欲をもてる取組を工夫した。(2③)

- 支持的風土の醸成のために、自分を語り、他者を受け止める取組を全学級で進めた。具体的には、帰りの会での1分間スピーチや、児童生徒主体の委員会が行っている「ありがとうの木」などで、うれしかったことなどを言葉にして掲示することで、お互いのよさを認め合う機会とした。(2④)
- 話し合いを通じた自治的な活動として、毎月、定期的な学級会を全学級で行った。学年を越えての交流として、3年生の学級会を2年生が参観し、そこから学び取った内容を学級会に生かすなどの取組を行った。(2④)
- 人吉東小学校では授業改善チェックリストを作成し、日々の授業を自己分析したり、研究授業で活用することで共通の視点で参観したりすることができた。(3①)
- 「小中学校が共同で作成した児童生徒保護者向け『家庭学習の手引き』を活用し、家庭と連携した学習習慣の形成に取り組む」については、「家庭学習の手引き」の活用を周知した。また、家庭学習充実週間を年に3回設定し、学年の発達段階に合わせて、家庭に家庭学習への関わり方を示した。更に、自主学習が始まる第3学年からは「自主学習レシピ」を作成し、取り組み方の例を示すようにした。(3②)
- 「低学年を対象につまずきの個別調査を実施し、つまずきのパターンを類型化し個別最適な学びに生かす」については、春に実施された人吉市学力調査の結果を分析した。同時に、児童がどのようなところでつまずくのかを分析し、学力調査の結果と教師の意識調査の結果を比較した。そこで、教師の認識と実態のずれを明確にし、授業改善の新たな視点を明らかにした。(3③)
- 「支持的風土のある学習集団づくり—学習する主体と集団を育む協同学習の考え方—」と題して、3校合同研修会を開催した。(オンライン 講師 岡山大学教師教育開発センター高旗浩志教授)(3④⑤)
- 「児童が授業に臨む態度の育成のために、学びを深める『問い』発表(発言)のルールや教室での約束を検討し作成する」とし、まずは、以前からあった「学習のきまり」の見直しを行った。新たに「東っ子スタンダード」として、教室に掲示したり、3学期に振り返りをしたりして、全員が安心して同じ環境で学び合えるようにした。(3④⑤)

研究組織体制



研究実施の実際

時期(月)	実施内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の学校教育目標及び育む資質・能力決定 ○ 各学校のグランドデザイン決定
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回研究推進委員会の開催 ○ 小中合同研究部会の開催(研究主題、研究計画、研究組織の協議)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善チェックリストの検討 ○ 家庭学習の手引きについての検討 ○ 各学校の校内研究授業及び授業研究会の実施 ○ 一中校区交流会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「熊本の学び」ステップアップ研修 ○ 各部会の具体的方策の検討 ○ 研修に関する学びアンケート(1回目) ○ 人吉市学力調査をもとに、児童生徒のつまずきの分析 ○ 教育相談会の開催(児童生徒が一学期と二学期以降の学びを自ら見つめることができるように、教育相談会(児童生徒・保護者・担任)を実施)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「熊本の学び」研究指定地域連絡協議会 ○ 「東っ子スタンダード」の見直しと作成 ○ 「自主学習レシピ」作成 ○ 幼保小連携で、各こども園・幼稚園参観と情報交換 ○ 学級会の実践開始(月1回)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「熊本の学び」に関するアンケート実施 ○ 各学校の校内研究授業及び授業研究会 ○ 家庭学習充実週間の取組(1回目)
10月～11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の校内研究授業及び授業研究会 ○ 授業改善チェックリストをもとに授業改善(校内相互参観) ○ 講師招聘研修(オンライン講師 東京都杉並区立馬橋小学校 齋藤慎一主幹教諭)(中学校) ○ 体験入学における小中学生交流事業の実践
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合同研究推進会議(研究部) ○ 家庭学習充実週間の取組(2回目) ○ 小中相互参観の開始(週4日)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東間小学校が、「熊本の学び」研究校に追加 ○ 合同研究推進会議(研究部) ○ 本年度校内研修のまとめ ○ 各学校の校内研究授業及び授業研究会(小学校から中学校へ参加交流) ○ 研修に関する学びアンケート(2回目)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「熊本の学び」に関わる合同研修会(オンライン 講師 岡山大学教師教育開発センター 高旗浩志教授) ○ 各学校の校内研究授業及び授業研究会(中学校から小学校へ参加交流) ○ リーフレット、研究発表までのスケジュール、当日の内容検討開始

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年間交流学級会の実践 ○ 次年度グランドデザイン策定に向けた課題抽出
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合同研究推進会議(研究部)

市町村教育委員会の取組の実際

- カリキュラム・マネジメントに基づく総合的な学校運営に関する指導助言
各学校の学校運営に関する取組や直面する課題等について支援を行い、状況に応じ指導助言を行った。
- 研究推進における指導助言
研究推進委員会、合同研修会、各学校で実施する校内研修、公開授業等に参加し、研究推進の状況を把握し、研究の方向性等について指導助言を行った。
- 校内研修及び研究授業における指導主事等の派遣
各学校の校内研修、研究授業に市教育委員会の指導主事等を派遣し、研究推進に関する指導助言はもちろんのこと、授業力向上のための取組に対して指導助言を行った。

研究の成果【検証方法】

- 授業研究の中で見えてきた「自己選択・自己決定の場を設定する」「児童生徒同士の対話、学び合い」などの、「よい学び」をつくり出す授業実践を重ねることができた。(2①②)
- 教師が従来の授業観や学力観、児童生徒観から脱却し、目の前の児童生徒に身に付けさせるべき学びの姿や児童生徒自身の姿について真剣に問い直し、児童生徒の姿に寄り添った新しい教育活動を実践しようとしている。それによって、単元デザインを工夫し、振り返りを充実させたり、児童生徒一人一人に対する学びの見取り方を変えたりする実践が見られた。(2①②)
- 若手教師を中心とした授業力向上や学級経営力向上についての意識の変化が見えた。率先して自主研修に参加したり、実践を共有したり、管理職問わずベテラン教師に助言を求めるなどの行動が、主体的かつ積極的に行われるようになった。こういった意識と行動の変容から、職員集団が全体的に授業改善や児童生徒との関わり方の改善を心がけるようになってきた。(2①②)
- 定期的な学級会の取組から、自ら学級や学校をよりよいものにしていこうとする児童生徒の意欲的な姿が顕著に見えるようになった。(2④)
- 家庭や地域への積極的な情報発信や、授業公開などを行い、家庭・地域との連携が深まっている。民生委員、学校運営協議会委員の授業参観や、立志行事への保護者参加など、積極的に地域に開かれた学校経営が進んでいる。(2③)
- 「熊本の学び」に示されている授業改善の視点に沿って取り組み、授業改善チェックリストを作成した。研究授業において同じ視点で授業を分析することができ、焦点化した協議ができた。(3①)
- 家庭学習充実週間を定期的に設定したことで、家庭への啓発ができた。また、全学年の家庭学習を比較することで、学校として系統的に育てたい力が明確になった。今後は、小中学校が家庭学習充実週間の期間を揃えることで、小中連携して取り組んでいきたい。(3②)
- 人吉市学力調査の結果分析から、教師の認識と実態のずれが分かり、授業改善の新たな視点が判明した。(3③)
- 従来の「学習のきまり」の見直しを行った。新たに「東っ子スタンダード」として、教室に掲示したり、3学期に振り返りをしたりして、全員が安心して同じ環境で学び合えるようになってきている。また、学びを深める問いについては、構想案に位置付けることで、授業をする際に意識できるようにした。(3④⑤)

研究の課題と今後の計画・展望

- ①授業改善チェックリストは、「熊本の学び」の推進ができるよう、視点を精選する。また、普段から使えるように、教師が週案に貼るなど、意識付けの工夫を図る。
- ②「家庭学習の手引き」を学年懇談会等で示し、家庭学習の在り方を家庭や地域と共に考えていく。また、「分からない」を見付けてくる「準備学習」の視点を取り入れていきたい。
- ③熊本県学力・学習状況調査結果を分析し、つまずきの多い項目の改善を図る。どのようにつまずきが変わっているのか、同一集団で継続して分析を続けていく。
- ④安心と信頼にあふれた高め合う学級づくりのために、研修会で学んだことをまとめて、どのような心構えで集団づくりに取り組まなければいけないのか、教職員で共通実践事項を決める。
- ⑤発言方法や反応の仕方については、学級間でばらつきがあるため、発達段階に合わせて系統的な指導ができるように、学級会での話し合い活動を他教科でも実践していく。
- ⑥更なる読書活動の推進のための、図書館運営を含めた工夫と実践を進める。
- ⑦児童生徒の思考に寄り添う学習構想案の更なる定着と実践を推進する。
- ⑧自ら学び続ける意欲をもち、授業を含めた「学びをたのしむ」児童生徒の姿を目指して、授業や学級会において、児童生徒同士の対話の深まりやつながりを充実させる場を設け、より高め合える学びの集団に育てる取組を行う。
- ⑨自ら学び続ける意欲をもち、児童生徒と共に授業をたのしむ教師の姿を目指して、授業における教科の本質に迫る児童生徒の学びの価値付けや見取り、共有の仕方について研修と授業実践を通して深めていく。
- ⑩個々が大切にされる学級・学年の実現のために、自治的風土、支持的風土を育む取組を児童生徒主体の取組として実践していく。
- ⑪家庭からの情報の受信を見据えた、家庭との連携と情報発信の工夫に取り組む。

研究成果の普及

- 本年度の取組を学校ホームページで公開し、保護者や地域の方にも本校区で取り組んでいることを周知していく。
- 本年度の研究について、有効であった実践を共通実践事項とするために、3校間で実践報告会をし、来年度の研究に生かす。
- 来年度、研究発表会を行い、研究授業公開やこれまでの取組を公表し、「熊本の学び」を具現化した授業実践を紹介する。また、研究内容に即したリーフレットを作成し、「熊本の学び」に沿った教育活動を具体的に紹介する。